

「憲法と平和 ～『島』から考える」

ロニー・アレキサンダー

1977年に来日した当初、季節が変わる度に新たな驚きに出会ったことはいまだ新鮮に記憶に残っています。キリスト教でもないのにクリスマスで盛り上がることや、コンビニすら開いていない正月三が日、バレンタインディに女性が男性にチョコレートをあげることや、3月14日の「ホワイトディ」にそのお返しをすること。桜の下で騒ぐことにも驚きましたが、特に印象に残ったのは5月3日の憲法記念日のことです。「憲法制定が祝日になるんだ！」と驚きました。でも、考えてみたら、政治的体制が整い、人々が平和に暮らすことができるようになったことを記念する国が少なくありません。「独立記念日」や「解放記念日」、「終戦記念日」もそのようなものでしょう。私を含めて、戦争や抑圧からの解放を直接的に体験していない人は、そういった記念日から気持ちが遠くなってしまうことは仕方ないかもしれません。しかし、私にとって、初めての日本の憲法記念日は、憲法九条の意味を考えるきっかけとなりました。

その頃、広島で働いていました。日本で仕事することを希望していたけれど、行き先が広島になったときは正直にいうと泣きました。「戦後生まれの私でもアメリカ人だということで日本人にとって『敵国』の人間になる。広島に行ったら嫌われ、友だちは一人もできないだろう」と思ったからです。でも、せっかくのチャンスでもあったので、戸惑いながら広島へやってきました。

幸い、私を嫌っているよりは、平和の尊さを教えたほうが良いと考える人が多かったので友だちがたくさんできました！生まれ育った米国では、「平和のためには戦争をしなければならない」と考えるのは一般的で、中学生のときから平和運動に参加していた私も恐らくそう思っていたかもしれません。そういう私は広島で原爆のことや、マーシャル諸島でアメリカが「平和を守る」ために行った核実験のことを知り衝撃を受けました。沖縄やマリアナ諸島に太平洋戦争の歴史を学びに行き、本土の「平和」を守るために「島」の人々や生き物、生活を犠牲にする国家の姿を考えるようになりました。

大学院では、大きな国の「安全保障」のために使われる「島」の研究をすることにし、現在は特にグアム島を対象にしています。グアム島は、植民地化されたことや激しい戦争、占領の歴史、米軍基地の存在など、沖縄と共通点が多くあります。しかしながら、沖縄の人は米軍基地で働くことはあっても入隊して戦うことは原則、ありません。グアムでは、米軍は就職先として観光産業とトップを争うけれど、ミクロネシア出身の米兵は、ほかのエスニシティに比べて戦死する人の割合が最も多いです。グアムの人は自らが入隊を選び、アメリカのために戦うことはできるが、最高司令官でもある大統領の選挙には投票権がありません。アメリカの憲法がうたっている「平等」は、米国領グアム島の人々に適用されません。

日本国憲法も「平等」や人権を守ること、戦争をしないことをうたっています。戦争をしないということは、本土のために「島」を犠牲にしないこと。若者を戦争に送り出さないこと。殺し合いより話し合いを選ぶこと。いのちを大事にすること。日本人にも世界中の人にも掛け替えのないことです。

実は、私の誕生日は5月3日です。誕生日が国際社会に平和への道筋を示す憲法九条の日だということを知ってうれしくなりました。「戦争をしない」ことの意味と喜びを世界中の人に広げたくなりました。今年も来年も100年後も「戦争をしないことを確認する日」として5月3日。その存続は今、私たちの手にかかっています。